Journal of Osaka Kawasaki
Rehabilitation University Vol.*4. 2010.*
pp.*19-35*

原　著

Ｓ－Ｐ表分析による聴覚障害児の抽象語理解

Comprehension of abstract words among hearing impaired children by S-P Chart Analysis.

國末　和也[1)]　　福島　邦博[2)]

要約：標準抽象語理解力検査を聴覚障害児に実施し、Ｓ－Ｐ表分析を用いて抽象語の理解傾向及び語彙指導法について検討した。対象は、小学１年生から中学３年生までの知的発達に問題が指摘されていない聴覚障害児79名であり、補聴器装用児は63名、人工内耳装用児は16名であった。比較群は小学１年生から６年生の健聴児188名であった。

Ｓ－Ｐ表分析により、小学校中学年以降の聴覚障害児の抽象語理解は、約１から２学年ほど健聴児より遅れる傾向があったが、高学年から中学生になると、健聴６年生の正答率の平均以上の抽象語の理解をしている児童・生徒がいた。所謂、“９歳レベルの峠”を越える児童・生徒がいることが示された。また、Ｓ－Ｐ表分析により語彙指導をする上での時期の推定が可能になり、聴覚障害児には、適切な時期に適切な語彙を指導する重要性が示唆された。

Key Words：聴覚障害、抽象語、Ｓ－Ｐ表分析、９歳レベルの峠、語彙指導法

1　はじめに

経済協力開発機構（OECD）の学習到達度調査（PISA）により、我が国の児童・生徒の思考力、判断力、表現力等の読解力や知識・技能を活用する能力等の報告がなされ、読解力の低下傾向が指摘されている[1)]。このことは教育のみならず社会的にも話題となった。また、平成19年より全国学力調査が実施され、学力に関する関心も高まっている。

児童・生徒の学力ついて整理すると、学力とは「学校教育において達成すべき教育目標が、児童・生徒のなかに内面化された状態のこと」と定義されている[2)]。また、平成20年に改定された文部科学省の学習指導要領「国語科」の目標では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」と規定されている[3)]。

学習指導要領では、国語の能力の基礎となる表現力と理解力の育成が中心目標になっている。即ち、国語科の目標を達成することにより、特に言語に関する基礎的学力が習得することになると考えられる。特別支援学校（聴覚障害）に

Kazuya Kunisue
大阪河崎リハビリテーション大学
リハビリテーション学部　言語聴覚学専攻
E-mail : kunisuek@kawasakigakuen.ac.jp
1) リハビリテーション学部　言語聴覚学専攻
2) 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 耳鼻咽喉･頭頸部外科学

おいては、「準ずる教育」であるので、この学習指導要領に規定されている国語科の目標が、聴覚障害児に対しても言語の習得に関する目標になり、達成すべき学力の一端になるのである。

児童・生徒は、各学年に応じた言語を習熟することによって理解力や表現力が培われ思考力が養われる。また、言語の習得には、具象語及び抽象的の理解が必須であるが、殊に抽象語の理解は、思考力や類推力の向上を図るためには重要である。このことは、聴覚の問題やコミュニケーション上の問題があっても、聴覚障害児も同様である。

聴覚障害児の学力についてTraxlerは、「聴覚障害児の読み能力の発達は低下しており、学力低下が深刻である」と報告している[4)]。日本において、従来より聴覚障害児の学力低下が指摘され[5)]、現在もなお同様な問題が生じている[6)]。

我々はこれまでに、聴覚障害児の抽象語の理解に着目し、抽象語の理解力を評価する検査としての標準抽象語理解力検査[7)]の有用性及び抽象語の理解傾向について検討を行ってきた[8)]。その結果、標準抽象語理解力検査の正答数と学年間には強い相関が見られ、聴覚障害児の抽象語の理解は５年生でCatch-upする傾向が得られている。また、誤答傾向について、聴覚障害児と健聴児間に差が見られなかったことも報告している[9)]。すなわち、聴覚障害児の抽象語の発達には学年差が生じているが、質的には同様な発達をしているのである。

さらに検討した結果、抽象語彙個々に焦点を当て、Ｓ－Ｐ表分析を用いたことにより語彙の習得度及び習得度に応じた指導法について知見が得られたので報告する。

本研究は、聴覚障害児の学力の習得に関する研究につながり、学力を高めるための教育方法や語彙評価法にも応用できる研究である。なお、研究の一部は、日本特殊教育学会第45・46回大会で発表している[10, 11)]。

2　方法

対象は小学１年生から中学３年生までの知的発達に問題が指摘されていない聴覚障害児79名であり、補聴器装用児は63名、人工内耳装用児は16名であった。特別支援学校（聴覚障害）の児童・生徒は57名であり、公立小学校の通常学級や特別支援学級（聴覚）の児童・生徒は22名であった。良聴耳平均聴力レベルは52dBから134dBであった。比較群は小学１年生から６年生の健聴児188名であった。

標準抽象語理解力検査を実施した。聴覚障害児には個別或いは２から５名程度の小集団で、視覚と聴覚呈示を併用して実施した。視覚呈示は漢字とその読み仮名を書いたカードである。視覚呈示と同時に肉声による聴覚呈示を行った。健聴児は学級単位で実施した。テレビ画面に読み仮名つきの抽象語彙を映すとともに肉声によりその語彙を読み上げた。

分析方法は、Ｓ－ＰシステムfOr Windows（イーシーエス開発室）によるＳ－Ｐ表分析である。Ｓ－Ｐ表分析では、正答率85％以上を準良好（易し過ぎる）、15％以上から85％未満を良好、15％未満の問題を準良好（難し過ぎる）と分類している[12, 13)]。この基準によりそれぞれ容易語彙群（Ｘ群）、標準語彙群（Ｙ群）、困難語彙群（Ｚ群）として集計した。

特別支援学校（聴覚障害）に通う児童・生徒の場合には、学年に準じた教科書対応の学習を行っているが、それぞれの学校や学級で学習進度が異なっていたり、学習内容を変更したりする場合があるので、聴覚障害児の集計についは、小学校１・２年生の低学年、３・４年生の中学年、５・６年生の高学年とした。また、中学校１～３年生は中学生として集計した。

なお、本研究は、対象児童・生徒が在籍する学校長の同意を得て検査を実施すると共に、岡山大学大学院医歯学総合研究科で行った研究[9)]

の継続研究である。

3　結果

3.1　健聴児の抽象語理解

１年生の場合（**表１－ａ**）、語彙の正答率の平均は33.2％であった。Ｘ群の語彙数は３語であり、Ｙ群は16語、Ｚ群は13語であった。Ｘ群に属する語彙は「競争・秘密・失敗」の３語であった。

２年生の場合（**表１－ｂ**）、語彙の正答率の平均は48.7％であった。Ｘ群の語彙数は８語であり、Ｙ群は15語、Ｚ群は９語であった。Ｘ群とＺ群に属する語彙数がほぼ同数であった。新たに、「無事・安全・協力・好物・親切」がＸ群に属する語彙となった。１年生ではＺ群に属していた「混雑・興奮・家事・保存」の語彙は、正答率が15％以上になりＹ群に属するようになった。

３年生の場合（**表１－ｃ**）、語彙の正答率の平均は61.0％であった。Ｘ群の語彙数は10語であり、Ｙ群は19語、Ｚ群は３語であった。Ｘ群に属する新たな語彙は「飼育・救助・栄養」であったが、２年生ではＸ群に属していた「好物」は正答率84.8％であったためＹ群に属すようになった。Ｚ群に属する語彙は３語になり、２年生でＺ群に属していた「主食・疲労・労働・知識・比較・技術」の語彙は、正答率が15％以上になりＹ群に属するようになった。

４年生の場合（**表１－ｄ**）、語彙の正答率の平均は72.4％であった。Ｘ群の語彙数は17語であり、Ｙ群は14語、Ｚ群は１語であった。Ｘ群に属する語彙数が半数以上となり、新たに「事故・好物・限界・混雑・幸福・固定・興奮」が85％以上の正答率になりＸ群に属すようになった。２年生ではＺ群に属していた「発育・対立」はＹ群に属するようになり、Ｚ群は「賛否」の１語のみとなった。

５年生の場合（**表１－ｅ**）、語彙の正答率の平均は77.2％であった。Ｘ群の語彙数は20語であり、Ｙ群は11語、Ｚ群は１語であった。Ｘ群には新たに「家事・訪問・保存」が属するようになった。Ｚ群の語彙は４年生と同様「賛否」の１語であった。

６年生の場合（**表１－ｆ**）、語彙の正答率の平均は83.9％であった。Ｘ群の語彙数は22語であり、Ｙ群は10語、Ｚ群の語彙はなかった。Ｘ群には新たに「休息・主張」が属するようになり、約1/3の語彙が85％以上の正答率となった。

１年生のＰ曲線（Problem Line）は、一部の抽象語の理解は高いが、理解度が低い語彙が多いという傾向であり、困難語彙は不選択という回答が多いという傾向であった。２年生のＰ曲線は直線的であった。３年生になると、１年生とは逆形状の曲線になっていた。４年生になるとＰ曲線の形状はやや曲線になっていた。５・６年生ではより曲線となり、抽象語彙の多くが理解されていた。

Ｓ－Ｐ表の中でＰ曲線より上部の誤答率（不選択は誤答に含めず）は、１年生が9.4％、２年生が12.1％、３年生が12.7％、４年生が9.5％、５年生が9.2％、６年生が5.4％であった。

正答率と注意係数[※1]の関係から、１・２年生の場合に正答率が低い語彙は注意係数が大きいという結果であった。すなわち、正誤のばらつきが大きい傾向にあった。正答率15％以上のＸ群及びＹ群の語彙の中で、２年生の「失敗・事故」以外は注意係数1.0未満であった。このことから、Ｘ群及びＹ群の語彙について、正誤のばらつきは小さい結果にあった。

３年生では、注意係数が1.0以上の正誤のばらつきが大きい語彙は、「労働・主食・賛否」の３語であった。４年生では、「賛否」のみ正誤のばらつきが大きかった。

５年生では、正答率が低いＺ群の語彙「賛否」の注意係数は小さく、５年生にとっては困難語

彙であった。また、X群の語彙の中で、「興奮・栄養」は、正誤のばらつきがあり、注意係数が大きいという結果であった。

６年生では、Y群の「疲労」は、注意係数が大きく、正誤のばらつきが大きい語彙であった。しかしながら、注意係数の平均が0.4になり、学年進行に伴って正誤のばらつきが小さくなる傾向があった。

表１－ａ　健聴１年生のＳ－Ｐ表

P 曲線(Problem Line)　S 曲線(Student Line)

1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択

X群：正答率85%以上　Y群：正答率85%未満15%以上　Z群：正答率15%未満

	X群			Y群																	Z群											正答数	正答率	注意係数
	競争	秘密	失敗	安全	事故	栄養	親切	協力	無事	限界	好物	飼育	救助	悲鳴	主張	固定	幸福	訪問	休息	疲労	混雑	労働	興奮	主食	家事	保存	対立	賛否	知識	比較	発育	技術			
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	/	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	20	62.5	0.01
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	/	/	/	/	1	/	A	/	/	/	/	/	/	/	18	56.3	0.06
3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	A	B	A	/	/	A	A	B	A	1	A	B	B	C	A	17	53.1	0.07
4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	/	1	/	/	/	/	/	B	/	1	/	/	/	/	/	/	17	53.1	0.07
5	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	1	1	1	A	/	B	B	A	B	B	B	C	B	B	B	C	16	50.0	0.19
6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	C	1	C	B	/	A	B	A	1	1	1	1	A	/	/	B	B	B	B	/	A	B	15	46.9	0.26
7	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	1	1	/	1	/	1	/	1	/	/	/	/	/	/	B	/	/	/	/	/	/	B	14	43.8	0.15
8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	B	/	/	/	/	/	14	43.8	0.03
9	1	1	B	1	1	1	A	B	A	1	1	1	1	A	1	/	B	/	1	B	B	1	A	A	B	B	/	B	A	B	1	B	13	40.6	0.47
10	1	1	1	1	A	1	1	B	1	1	1	1	1	A	1	A	/	/	1	/	/	B	A	A	B	/	/	C	B	B	B	A	13	40.6	0.20
11	1	1	1	1	B	1	B	1	1	1	1	1	1	A	1	B	B	B	B	/	/	/	A	A	/	/	/	/	B	B	/	B	12	37.5	0.15
12	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	/	1	/	1	/	A	/	/	/	B	/	/	A	/	/	B	B	/	/	/	/	/	11	34.4	0.06
13	1	1	1	1	1	/	1	1	/	1	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	10	31.3	0.16
14	1	1	1	1	1	1	1	B	B	A	1	1	B	B	1	B	/	/	B	/	/	B	A	A	/	/	B	A	B	B	B	B	10	31.3	0.10
15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	/	1	/	B	/	/	B	/	/	/	A	/	/	B	B	B	B	/	/	/	/	/	10	31.3	0.01
16	1	1	1	1	1	1	1	/	1	/	1	/	1	B	/	A	B	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	B	/	/	B	10	31.3	0.07
17	1	1	1	1	1	/	1	B	A	1	A	/	1	A	1	/	1	/	B	A	A	/	/	B	A	/	/	/	/	/	/	/	10	31.3	0.25
18	1	1	/	1	1	1	/	1	1	1	A	/	B	B	1	A	B	/	/	B	/	/	/	A	/	/	B	B	/	B	/	/	9	28.1	0.16
19	1	1	1	1	1	1	B	1	/	B	/	1	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	B	/	/	/	/	/	/	/	9	28.1	0.09
20	1	1	1	1	1	1	/	1	1	B	/	/	/	B	/	/	B	/	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	9	28.1	0.13
21	1	1	1	1	/	/	/	1	1	A	1	/	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	B	B	/	/	/	/	B	/	/	8	25.0	0.16
22	1	1	1	/	1	1	1	1	1	/	/	/	/	B	/	/	/	/	/	/	/	/	A	/	/	/	/	/	/	/	/	B	8	25.0	0.08
23	1	1	1	/	1	/	1	/	1	/	1	/	/	/	/	1	/	/	/	/	/	/	A	A	/	/	/	/	/	B	/	/	8	25.0	0.23
24	1	1	1	1	1	/	/	/	1	B	/	/	B	/	1	/	B	B	/	1	/	/	/	/	/	/	B	/	/	B	/	/	8	25.0	0.25
25	1	1	1	1	1	1	/	1	/	B	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	8	25.0	0.03
26	1	/	1	1	1	/	1	/	/	1	1	/	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	B	/	B	/	8	25.0	0.23
27	1	1	1	1	1	1	/	1	/	B	/	/	/	B	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	7	21.9	0.00
28	1	1	1	1	/	1	/	/	1	A	/	/	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	A	/	/	/	/	C	/	/	/	/	7	21.9	0.13
29	1	1	B	B	A	B	/	B	/	1	1	1	1	/	/	/	C	A	B	/	B	/	A	A	/	B	/	B	/	/	/	1	7	21.9	0.53
30	1	1	1	1	1	A	/	A	/	B	/	/	/	B	/	B	B	B	/	/	/	/	/	A	/	/	/	1	1	/	/	/	7	21.9	0.36
31	A	1	1	B	A	1	1	1	A	A	/	/	B	1	/	A	B	/	B	/	B	C	B	A	/	/	/	A	B	B	B	B	6	18.8	0.33
32	1	1	1	1	A	/	/	B	/	1	/	/	/	1	/	/	B	/	/	/	/	/	/	/	B	/	A	/	/	/	/	/	6	18.8	0.17
33	1	1	A	A	/	/	1	B	/	/	/	/	/	B	/	/	B	/	/	/	/	/	A	1	1	/	/	/	/	1	/	/	6	18.8	0.79
																																	10.6	33.2	
正答数	32	32	29	28	24	22	20	20	19	18	17	17	12	11	10	7	5	5	5	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11.0		
正答率	97.0	97.0	87.9	84.8	72.7	66.7	60.6	60.6	57.6	54.5	51.5	51.5	36.4	33.3	30.3	21.2	15.2	15.2	15.2	9.1	6.1	6.1	6.1	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	33.2		
注意係数	0.07	0.47	0.58	0.15	0.53	0.37	0.31	0.41	0.38	0.15	0.32	0.02	0.26	0.83	0.50	0.21	0.25	0.05	0.35	1.09	0.76	0.66	0.06	1.53	1.53	0.33	0.33	1.33	1.33	1.53	0.73	1.33	0.6		
差異係数																																	0.28		

表１－ｂ　健聴２年生のＳ－Ｐ表

Ｐ曲線(Problem Line)　Ｓ曲線(Student Line)

1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択

X群：正答率85％以上　Y群：正答率85％未満15％以上　Z群：正答率15％未満

	X群								Y群															Z群									正答数	正答率	注意係数
	競争	秘密	無事	安全	失敗	協力	好物	親切	事故	救助	栄養	限界	飼育	主張	固定	悲鳴	興奮	幸福	混雑	休息	訪問	家事	保存	主食	疲労	労働	知識	対立	賛否	比較	発育	技術			
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	B	B	B	B	C	B	C	B	23	71.9	0.03
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	A	/	B	A	/	C	/	/	B	22	68.8	0.02
3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	A	B	B	B	B	C	B	A	A	22	68.8	0.00
4	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	A	B	B	B	B	C	B	C	B	21	65.6	0.22
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	A	A	B	B	B	B	A	/	C	B	21	65.6	0.02
6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	1	1	B	/	/	1	/	1	B	B	C	/	/	/	21	65.6	0.15
7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	B	1	/	1	A	B	B	B	B	A	B	C	A	20	62.5	0.07
8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	A	1	B	1	1	A	B	B	A	A	1	B	B	C	B	1	B	19	59.4	0.22
9	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	/	1	1	/	1	/	/	/	B	B	C	/	/	B	19	59.4	0.17
10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	A	C	B	1	C	A	/	1	1	C	/	1	A	B	B	/	B	18	56.3	0.26
11	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	B	/	1	A	B	B	B	B	B	B	C	B	18	56.3	0.16
12	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	/	1	A	1	1	1	/	1	1	1	A	A	/	/	C	B	/	A	/	B	18	56.3	0.25
13	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	A	/	1	1	1	1	/	1	B	/	/	/	/	1	B	/	C	/	/	B	17	53.1	0.25
14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	B	1	1	A	1	1	B	C	1	B	A	A	B	B	1	B	C	B	A	A	17	53.1	0.24
15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	B	1	C	A	/	1	A	C	B	B	A	/	B	/	B	17	53.1	0.09
16	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	B	1	A	/	/	1	/	1	/	B	B	/	B	B	/	B	C	B	16	50.0	0.18
17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	A	A	/	1	/	B	/	/	A	/	/	B	/	/	1	/	B	16	50.0	0.15
18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	1	A	A	A	1	1	B	B	B	1	B	A	C	1	B	B	B	B	B	B	15	46.9	0.29
19	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	/	1	A	1	A	1	B	B	A	B	/	1	B	B	B	/	B	B	A	/	15	46.9	0.23
20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	A	B	/	/	B	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	15	46.9	0.02
21	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	/	1	1	1	1	/	B	/	1	/	B	/	A	/	/	B	/	/	/	/	B	15	46.9	0.13
22	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	A	1	/	/	/	/	/	/	A	/	/	/	/	/	/	/	/	15	46.9	0.02
23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	/	1	1	/	B	/	/	/	/	B	/	/	/	B	/	/	/	/	/	14	43.8	0.03
24	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	A	1	1	1	/	1	B	B	/	B	/	/	A	/	/	B	/	/	/	/	/	14	43.8	0.10
25	1	1	B	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	/	1	1	/	/	B	/	/	/	A	/	/	B	/	/	B	/	/	14	43.8	0.16
26	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	/	B	/	/	/	/	B	B	/	/	/	/	1	/	B	B	/	/	14	43.8	0.12
27	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	B	B	A	C	1	A	A	B	/	A	A	A	C	B	A	C	B	A	B	13	40.6	0.06
28	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	/	1	/	1	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	1	/	/	/	/	/	/	/	13	40.6	0.24
29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	/	B	B	B	A	B	B	A	A	B	1	A	C	B	B	C	B	B	/	/	12	37.5	0.09
30	1	1	1	1	1	1	/	1	1	/	1	1	/	/	1	/	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	12	37.5	0.14
31	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	/	/	A	/	/	/	/	B	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	12	37.5	0.04
32	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	1	/	/	1	/	A	/	/	A	/	1	/	/	/	1	/	/	/	/	B	/	/	12	37.5	0.29
33	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	/	/	/	1	/	/	B	/	B	/	/	/	A	/	/	/	B	/	/	/	/	11	34.4	0.05
34	1	1	1	1	1	A	A	A	1	/	A	B	B	A	B	1	A	A	/	B	B	A	B	/	1	B	B	1	B	B	A	1	10	31.3	0.67
35	1	1	1	A	1	1	1	/	1	B	A	B	/	B	A	1	A	B	A	A	B	B	A	A	1	/	B	B	1	B	B	/	10	31.3	0.47
																																	16.0	50.1	
正答数	35	35	34	34	33	33	32	31	30	29	29	24	23	21	21	18	17	14	11	11	10	8	8	4	4	4	3	1	1	1	1	1	17.5		
正答率	97.2	97.2	94.4	94.4	91.7	91.7	88.9	86.1	83.3	80.6	80.6	66.7	63.9	58.3	58.3	50.0	47.2	38.9	30.6	30.6	27.8	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	8.3	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	48.7		
注意係数	0.00	0.00	0.64	0.04	1.69	0.49	0.23	0.17	1.01	0.26	0.26	0.17	0.41	0.30	0.30	0.73	0.27	0.20	0.13	0.23	0.27	0.26	0.56	0.43	1.83	0.63	0.97	1.86	1.86	1.06	0.56	1.86	0.6		
差異係数																																	0.23		

表１－ｃ　健聴３年生のＳ－Ｐ表

P 曲線(Problem Line)　S 曲線(Student Line)

1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択

X群：正答率85％以上　Y群：正答率85％未満15％以上　Z群：正答率15％未満

	X 群										Y 群																			Z 群			正答数	正答率	注意係数
	親切	競争	安全	秘密	無事	飼育	失敗	協力	救助	栄養	事故	固定	好物	限界	悲鳴	興奮	主張	訪問	保存	休息	家事	混雑	幸福	労働	知識	比較	技術	主食	疲労	発育	対立	賛否			
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	A	1	1	1	A	27	84.4	0.42
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	A	A	A	B	C	26	81.3	0.05
3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	1	1	1	1	1	1	1	1	/	A	1	1	A	A	/	25	78.1	0.29
4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	A	A	A	B	C	25	78.1	0.21
5	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	B	A	B	A	1	B	A	C	22	68.8	0.18
6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	A	1	1	1	1	B	1	B	B	1	A	B	B	B	C	22	68.8	0.15
7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	/	1	1	B	B	1	B	A	B	A	B	A	22	68.8	0.09
8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	/	1	/	1	B	B	C	B	/	/	B	22	68.8	0.08
9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	B	1	1	1	B	1	/	1	A	1	1	B	A	1	B	B	/	22	68.8	0.35
10	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	B	1	1	1	B	1	B	B	A	B	A	B	A	21	65.6	0.23
11	1	1	1	1	1	1	C	1	1	1	1	C	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	/	1	B	/	1	A	/	C	B	/	21	65.6	0.30
12	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	/	1	B	1	/	/	B	A	A	B	B	/	20	62.5	0.19
13	1	1	1	1	1	1	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	C	1	1	/	1	/	/	B	A	B	B	B	B	20	62.5	0.15
14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	1	1	1	1	1	B	1	1	B	A	B	A	B	A	1	B	B	B	20	62.5	0.24
15	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	A	1	B	1	1	1	B	B	B	C	B	B	B	A	20	62.5	0.22
16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	/	/	/	B	/	B	A	B	B	/	B	20	62.5	0.01
17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	B	B	A	1	B	1	B	B	B	C	B	A	B	1	B	1	19	59.4	0.31
18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	A	1	/	1	1	B	B	B	B	A	/	B	A	A	19	59.4	0.09
19	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	A	1	1	B	1	1	B	A	B	A	B	B	A	A	19	59.4	0.20
20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	A	/	/	/	B	/	B	/	1	1	/	/	B	A	19	59.4	0.18
21	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	A	/	1	1	/	/	B	/	B	A	/	B	/	/	18	56.3	0.10
22	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	A	A	1	1	B	A	B	B	1	B	C	B	B	B	C	18	56.3	0.17
23	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	A	1	1	A	1	B	A	B	A	1	1	1	B	B	1	B	A	C	B	A	18	56.3	0.33
24	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	1	A	/	1	A	1	/	/	1	A	A	C	B	A	B	B	1	B	18	56.3	0.24
25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	A	1	1	B	1	1	1	C	1	B	B	A	B	A	B	A	B	B	B	C	17	53.1	0.18
26	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	A	1	/	/	/	B	/	/	/	B	A	/	/	/	/	17	53.1	0.01
27	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	C	1	1	B	B	1	B	/	/	1	1	B	C	B	/	A	B	B	A	17	53.1	0.20
28	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	A	1	1	A	A	1	B	/	B	/	B	/	B	A	B	B	B	/	16	50.0	0.11
29	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	/	A	1	1	/	B	1	C	B	B	B	A	/	B	B	B	16	50.0	0.19
30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	/	1	1	1	1	/	/	/	A	/	/	/	1	/	/	/	B	1	/	/	/	/	15	46.9	0.24
31	1	1	1	1	1	A	1	1	B	A	1	1	B	1	B	1	1	1	/	B	/	/	B	1	1	/	B	A	/	/	/	/	15	46.9	0.41
32	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	B	A	C	B	B	B	C	C	1	B	1	B	A	B	1	B	A	B	B	14	43.8	0.36
33	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	A	/	1	1	1	A	1	/	/	/	/	/	B	/	/	/	B	1	/	B	/	/	14	43.8	0.25
																																	19.5	61.0	
正答数	33	33	33	33	31	31	30	30	29	29	28	28	28	28	25	24	19	19	18	18	17	17	17	11	8	6	6	5	5	2	2	1	20.1		
正答率	100	100	100	100	93.9	93.9	90.9	90.9	87.9	87.9	84.8	84.8	84.8	84.8	75.8	72.7	57.6	57.6	54.5	54.5	51.5	51.5	51.5	33.3	24.2	18.2	18.2	15.2	15.2	6.1	6.1	3.0	61.0		
注意係数	0.00	0.00	0.00	0.00	1.14	0.64	0.91	1.01	0.38	0.38	0.85	0.45	0.45	0.55	0.86	0.53	0.78	0.28	0.35	0.45	0.22	0.42	0.42	1.13	0.24	0.28	0.58	1.35	0.35	0.56	0.56	1.03	0.5		
差異係数																																	0.35		

表１－ｄ　健聴４年生のＳ－Ｐ表

Ｐ曲線(Problem Line)　Ｓ曲線(Student Line)

1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択

X群：正答率85％以上　Y群：正答率85％未満15％以上　Z群：正答率15％未満

	X群 親切	競争	無事	救助	秘密	安全	飼育	事故	好物	協力	限界	栄養	混雑	幸福	失敗	固定	興奮	Y群 保存	休息	家事	悲鳴	主張	疲労	訪問	労働	比較	対立	知識	技術	主食	発育	Z群 賛否	正答数	正答率	注意係数
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	A	30	93.8	0.21
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	C	28	87.5	0.61
3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	B	1	1	1	C	/	28	87.5	0.13
4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	A	B	C	27	84.4	0.26
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	A	1	/	1	A	1	1	1	/	27	84.4	0.31
6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	/	B	A	1	1	1	/	27	84.4	0.22
7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	A	A	1	1	B	1	1	/	1	B	26	81.3	0.30
8	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	A	B	1	1	1	1	1	1	B	1	A	A	25	78.1	0.60
9	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	/	1	1	1	1	A	A	1	/	B	/	24	75.0	0.32
10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	A	B	B	B	A	1	C	24	75.0	0.22
11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	B	/	B	A	B	/	24	75.0	0.02
12	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	1	B	1	1	A	B	A	/	/	23	71.9	0.27
13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	C	1	1	1	1	1	1	B	B	A	B	A	B	C	23	71.9	0.18
14	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	B	1	A	1	A	B	1	B	A	23	71.9	0.36
15	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	B	B	1	A	B	A	B	C	23	71.9	0.25
16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	1	A	1	1	1	1	A	1	1	A	1	1	A	B	A	A	1	23	71.9	0.52
17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	A	1	A	B	B	A	A	B	C	22	68.8	0.12
18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	A	1	1	1	B	A	B	/	B	A	B	A	22	68.8	0.13
19	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	A	A	1	A	B	1	B	1	A	A	C	A	22	68.8	0.24
20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	A	1	1	A	A	A	1	B	B	1	A	B	A	22	68.8	0.24
21	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	A	B	B	B	A	B	B	A	B	C	21	65.6	0.06
22	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	B	/	1	B	B	A	B	A	B	A	21	65.6	0.07
23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	/	B	B	A	/	1	B	A	A	/	21	65.6	0.22
24	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	1	1	1	1	A	1	B	B	A	B	B	A	A	C	21	65.6	0.14
25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	A	1	/	/	A	1	/	B	/	B	A	B	C	20	62.5	0.10
26	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	B	B	1	A	1	/	B	A	1	1	1	B	1	1	A	B	A	B	B	19	59.4	0.50
27	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	/	1	1	/	1	1	1	1	1	/	A	/	/	/	B	/	B	/	1	/	19	59.4	0.23
28	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	A	/	/	/	B	/	B	/	B	/	/	/	19	59.4	0.00
29	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	/	B	1	1	1	1	B	1	/	1	/	1	1	/	B	A	A	B	/	B	C	18	56.3	0.24
																																	23.2	72.4	
正答数	29	29	29	29	29	28	28	27	27	27	27	27	26	26	26	25	25	24	24	23	22	17	16	16	14	12	9	8	8	7	7	1	21.0		
正答率	100	100	100	100	100	96.6	96.6	93.1	93.1	93.1	93.1	93.1	89.7	89.7	89.7	86.2	86.2	82.8	82.8	79.3	75.9	58.6	55.2	55.2	48.3	41.4	31.0	27.6	27.6	24.1	24.1	3.4	72.4		
注意係数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.35	1.15	0.40	0.90	0.40	1.60	0.20	0.06	0.96	0.86	0.51	0.71	0.36	0.86	0.21	0.66	0.72	0.47	0.57	0.58	0.48	0.63	0.39	0.29	0.14	0.34	1.05	0.5		
差異係数																																	0.34		

表１－ｅ　健聴５年生のＳ－Ｐ表

Ｐ曲線(Problem Line)　Ｓ曲線(Student Line)

1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択

X群：正答率85％以上　Y群：正答率85％未満15％以上　Z群：正答率15％未満

	X群																			Y群										Z群	正答数	正答率	注意係数
	親切	安全	秘密	競争	無事	幸福	救助	好物	協力	家事	失敗	訪問	飼育	事故	興奮	栄養	混雑	保存	固定	限界	休息	悲鳴	主張	疲労	比較	労働	対立	技術	主食	知識	発育	賛否			
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	31	96.9	0.39
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	/	30	93.8	0.13
3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	C	29	90.6	0.33
4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	A	A	1	1	29	90.6	0.22
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	A	1	1	A	1	28	87.5	0.55
6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	A	A	B	27	84.4	0.36
7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	B	B	1	A	1	1	C	27	84.4	0.19
8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	A	1	B	B	B	27	84.4	0.21
9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	C	C	1	1	A	A	1	1	27	84.4	0.46
10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	A	1	A	A	1	/	26	81.3	0.32
11	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	1	1	B	1	1	/	1	1	1	C	26	81.3	0.62
12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	B	1	A	A	1	1	1	1	1	A	1	1	C	26	81.3	0.63
13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	B	1	A	1	A	C	26	81.3	0.13
14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	/	1	1	1	1	/	B	C	26	81.3	0.35
15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	1	1	B	1	A	B	C	26	81.3	0.16
16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	1	1	1	A	1	/	1	1	A	/	A	/	25	78.1	0.23
17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	B	A	1	1	B	1	1	B	C	25	78.1	0.36
18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	/	/	A	A	A	C	25	78.1	0.05
19	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	A	A	B	A	A	1	C	C	24	75.0	0.11
20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	C	A	1	B	1	1	A	B	1	B	B	A	24	75.0	0.21
21	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	B	B	A	A	A	C	C	24	75.0	0.02
22	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	1	A	A	A	A	A	A	/	23	71.9	0.04
23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	B	1	/	1	A	1	B	B	A	1	B	C	23	71.9	0.27
24	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	/	/	/	/	1	/	A	B	/	23	71.9	0.09
25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	1	1	1	B	A	1	1	1	1	1	B	A	1	1	B	A	1	B	C	22	68.8	0.46
26	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	A	/	1	1	B	B	B	1	/	/	/	22	68.8	0.30
27	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	/	B	B	B	A	B	A	1	A	/	22	68.8	0.16
28	1	1	1	1	1	A	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	1	1	1	B	1	B	B	A	B	B	C	21	65.6	0.31
29	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	1	1	1	A	1	B	A	B	A	A	B	C	21	65.6	0.23
30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	B	C	1	1	A	A	A	B	A	A	1	B	A	21	65.6	0.23
31	1	1	1	1	1	1	B	1	1	/	1	B	1	A	1	1	1	1	B	B	B	1	1	B	A	1	1	B	/	A	C	/	18	56.3	0.42
32	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	A	1	/	A	B	1	A	A	1	B	B	1	B	B	/	B	C	C	17	53.1	0.20
																																	24.7	77.2	
正答数	32	32	32	31	31	31	31	31	31	30	30	30	30	29	29	29	28	28	28	28	26	23	22	20	18	18	15	13	12	12	7	4	24.7		
正答率	100	100	100	96.9	96.9	96.9	96.9	96.9	96.9	93.8	93.8	93.8	93.8	90.6	90.6	90.6	87.5	87.5	87.5	87.5	81.3	71.9	68.8	62.5	56.3	56.3	46.9	40.6	37.5	37.5	21.9	12.5	77.2		
注意係数	0.00	0.00	0.00	1.18	0.68	0.58	0.18	0.58	0.58	0.05	0.85	0.65	0.65	0.23	0.93	1.13	0.70	0.10	0.20	0.40	0.15	0.88	0.95	0.20	0.35	0.75	0.48	0.23	0.20	0.90	0.28	0.20	0.5		
差異係数																																	0.34		

表１－ｆ　健聴６年生のＳ－Ｐ表

Ｐ曲線(Problem Line)　Ｓ曲線(Student Line)

1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択

X群：正答率85％以上　Y群：正答率85％未満15％以上　Z群：正答率15％未満

	X群																					Y群										正答数	正答率	注意係数
	親切	家事	事故	競争	保存	無事	救助	安全	飼育	幸福	固定	好物	訪問	協力	秘密	栄養	混雑	失敗	休息	主張	限界	興奮	悲鳴	主食	比較	疲労	労働	知識	対立	技術	賛否	発育			
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	31	96.9	0.00
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	31	96.9	1.09
3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	C	1	30	93.8	0.04
4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	C	1	30	93.8	0.04
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	B	1	1	30	93.8	0.31
6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	A	1	A	1	1	1	1	29	90.6	0.67
7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	/	B	1	1	29	90.6	0.29
8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	C	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	B	29	90.6	0.64
9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	1	A	1	1	B	1	1	28	87.5	0.56
10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	C	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	C	A	28	87.5	0.50
11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	/	1	/	A	28	87.5	0.13
12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	1	B	C	A	28	87.5	0.15
13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	A	A	28	87.5	0.32
14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	/	/	1	/	1	27	84.4	0.24
15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	/	A	27	84.4	0.41
16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	1	B	B	/	1	27	84.4	0.17
17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	A	/	1	/	B	26	81.3	0.10
18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	1	B	B	C	A	26	81.3	0.03
19	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	1	1	1	1	1	A	C	B	1	A	26	81.3	0.35
20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	B	1	1	/	B	B	C	A	25	78.1	0.17
21	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	/	A	B	/	A	25	78.1	0.12
22	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	1	1	A	A	B	B	C	A	23	71.9	0.19
23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	1	A	1	A	1	1	1	A	1	/	B	1	A	/	1	1	1	A	23	71.9	0.71
24	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	B	A	B	A	1	B	B	B	A	B	22	68.8	0.10
25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	1	1	1	1	A	A	/	/	B	B	B	B	A	/	21	65.6	0.01
26	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	1	1	1	1	1	1	B	1	A	1	B	1	B	A	B	B	/	A	21	65.6	0.20
																																	26.8	83.9	
正答数	26	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24	23	23	23	21	20	20	16	16	14	13	10	9	9	21.8		
正答率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	96.2	96.2	96.2	96.2	96.2	96.2	96.2	92.3	92.3	92.3	88.5	88.5	88.5	80.8	76.9	76.9	61.5	61.5	53.8	50.0	38.5	34.6	34.6	83.9		
注意係数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.35	0.05	0.35	1.05	0.05	1.25	0.35	0.31	0.31	1.11	1.26	0.76	0.46	0.47	0.42	0.12	0.84	0.34	0.15	0.20	0.56	0.42	0.22	0.4		
差異係数																																	0.34		

3.2　聴覚障害児の抽象語理解

低学年の場合（**表２－ａ**）、語彙の正答率の平均は24.8％であった。Ｘ群の語彙はなく、Ｙ群は17語、Ｚ群は15語であった。半数弱の語彙は15％未満のＺ群に属していた。健聴１年生の正答率の平均33.2％以上の児童は２名であり比率では14.3％であった。また、健聴２年生の正答率の平均48.7％以上の正答率の児童はいなかった。健聴児よりも低い正答率であった。

中学年の場合（**表２－ｂ**）、語彙の正答率の平均は30.2％であった。Ｘ群の語彙は１年生同様になく、Ｙ群は26語、Ｚ群は６語であった。Ｙ群に新たに「親切・救助・家事・固定・労働・発育・技術・栄養・疲労・悲鳴・興奮・休息」の12語が属するようになった。Ｙ群が約８割を占めるようになった。しかし、低学年ではＹ群に属していた「保存・主食・比較」は正答率が10％以下となりＺ群に属するようになった。健聴３年生の正答率の平均61.0％、健聴４年生の正答率の平均72.4％以上の正答率の児童はいなかった。健聴児との正答率の差は大きくなった。

高学年の場合（**表２－ｃ**）、語彙の正答率の平均は64.3％であった。Ｘ群の語彙数は11語であり、Ｙ群は20語、Ｚ群は１語であった。中学年でＹ群に属していた「事故・無事・救助・休息・秘密・家事・失敗・安全・飼育・栄養」、また、Ｚ群に属していた「好物」が正答率85％以上になりＸ群に属するようになった。Ｚ群は「知識」の１語となった。健聴５年生の正答率の平均77.2％以上の児童は３名であり比率では

表２－ａ　聴覚障害低学年のＳ－Ｐ表

Ｐ曲線(Problem Line)　Ｓ曲線(Student Line)
1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択
X群：正答率85％以上　Y群：正答率85％未満15％以上　Z群：正答率15％未満

	Y群																	Z群														正答数	正答率	注意係数
	競争	秘密	事故	失敗	安全	混雑	主張	対立	幸福	保存	無事	知識	主食	比較	協力	限界	飼育	親切	救助	訪問	家事	固定	賛否	労働	好物	発育	技術	栄養	疲労	悲鳴	興奮	休息			
1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	A	1	1	1	B	1	B	C	B	A	B	B	A	B	C	C	B	A	A	B	A	A	B	12	37.5	0.07
2	1	1	B	A	B	1	C	1	1	A	1	A	1	1	B	1	1	/	1	C	B	A	C	A	A	B	B	B	A	A	A	B	11	34.4	0.53
3	1	1	1	1	1	A	1	B	1	A	A	B	1	A	1	A	C	B	B	A	1	B	B	A	A	B	B	B	B	B	A	C	10	31.3	0.23
4	1	1	1	A	1	1	A	1	A	B	A	A	A	C	B	1	C	B	B	1	A	A	B	A	A	1	B	A	B	A	B	B	9	28.1	0.34
5	1	1	B	B	B	1	1	B	1	1	1	B	A	1	B	B	1	/	B	C	A	A	C	C	A	B	/	A	C	A	C	C	9	28.1	0.44
6	1	1	1	1	1	/	C	B	A	1	A	A	A	C	B	C	1	B	B	A	/	1	C	1	B	B	B	C	B	B	A	B	9	28.1	0.34
7	/	1	1	1	1	/	1	C	B	/	A	1	A	B	/	/	/	1	B	B	/	/	/	B	1	B	B	B	B	B	/	A	8	25.0	0.43
8	1	1	A	1	/	1	1	1	B	1	A	/	A	B	/	/	/	1	/	/	A	/	/	/	/	/	/	A	/	/	/	8	25.0	0.30
9	1	1	A	1	1	A	1	B	B	C	B	B	A	B	1	A	C	A	B	A	/	A	B	A	B	B	B	B	C	B	B	A	6	18.8	0.23
10	1	B	1	1	1	1	A	C	B	A	C	A	C	B	B	1	C	/	A	A	/	A	C	C	B	C	A	B	B	B	B	B	6	18.8	0.23
11	A	1	B	A	B	A	B	A	C	C	B	1	B	1	B	A	A	C	1	B	A	A	1	B	C	A	1	B	B	B	C	A	6	18.8	0.97
12	1	C	1	1	C	1	A	B	B	B	1	1	A	B	A	A	A	B	A	A	B	A	C	B	/	B	/	A	C	A	C	A	6	18.8	0.32
13	B	B	1	A	C	B	A	1	1	1	B	C	A	A	B	C	A	A	B	1	B	A	B	B	B	A	B	1	A	A	C	B	6	18.8	0.85
14	1	1	1	1	1	/	B	B	A	B	A	C	B	B	B	C	C	B	A	/	B	B	A	/	B	A	A	B	A	B	C	A	5	15.6	0.00
																																	7.9	24.8	
正答数	11	11	9	9	8	7	5	5	5	4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	3.5		
正答率	78.6	78.6	64.3	64.3	57.1	50.0	35.7	35.7	35.7	28.6	28.6	28.6	21.4	21.4	21.4	21.4	21.4	14.3	14.3	14.3	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	24.8		
注意係数	0.47	0.17	1.09	1.19	0.84	0.50	0.81	0.41	0.21	0.97	0.37	0.97	0.03	0.73	0.53	0.73	0.43	0.99	0.89	1.19	0.44	0.74	1.44	0.79	0.94	0.74	1.44	1.44	0.00	0.00	0.00	0.00	0.7		
差異係数																																0.63		

21.4％であった。また、健聴６年生の正答率の平均83.9％以上の児童は２名であり比率では14.3％であった。聴覚障害児の正答率が高くなり健聴児との差が少なくなった。

中学生の場合（**表２－ｄ**）、語彙の正答率の平均は73.7％であった。Ｘ群の語彙数は14語、Ｙ群は18語であり、Ｚ群はなかった。Ｘ群には新たに「競争・協力・技術・親切・幸福」の５語が属するようになった。しかし、高学年でＸ群に属していた「家事・失敗」は85％未満のＹ群に属するようになった。健聴６年生の正答率の平均83.9％と比較すると、それ以上の正答率の生徒は10名であり比率では32.3％であった。

低学年のＰ曲線は、曲線的であった。正答率が高い語彙「事故」でもＰ曲線より上部の児童の４名が誤答しているように、「事故・失敗」の注意係数が大きく正誤のばらつきがあった。Ｓ－Ｐ表の中でＰ曲線より上部の誤答率は、41.4％であった。

中学年のＰ曲線はやや直線的になっていた。Ｓ－Ｐ表の中でＰ曲線より上部の誤答率は、

表２－ｂ　聴覚障害中学年のＳ－Ｐ表

Ｐ曲線(Problem Line)　Ｓ曲線(Student Line)
1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択
X群：正答率85％以上　Y群：正答率85％未満15％以上　Z群：正答率15％未満

	Y群																									Z群						正答数	正答率	注意係数
	秘密	事故	競争	主張	安全	失敗	固定	救助	協力	親切	悲鳴	飼育	知識	労働	限界	無事	幸福	技術	休息	混雑	疲労	対立	興奮	家事	発育	栄養	主食	保存	賛否	好物	訪問	比較			
1	1	A	1	A	1	A	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	B	1	A	1	1	A	1	B	1	A	1	A	A	A	A	19	59.4	0.68
2	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	C	1	1	A	1	B	A	A	A	B	B	A	A	A	C	1	A	A	17	53.1	0.20
3	1	1	1	A	1	1	1	B	1	1	1	A	1	B	A	B	1	B	B	1	A	A	1	B	1	1	A	C	A	A	B	B	15	46.9	0.43
4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	B	1	A	1	A	A	1	A	1	B	B	A	C	B	B	B	A	B	B	C	A	B	13	40.6	0.09
5	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	B	1	B	B	C	1	C	B	A	B	1	1	A	C	B	B	A	B	C	B	A	B	13	40.6	0.24
6	1	1	1	1	A	1	B	1	B	B	A	A	A	1	A	A	B	1	C	1	1	B	B	C	B	B	A	1	C	A	A	B	11	34.4	0.48
7	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	B	B	A	1	A	B	C	B	1	A	A	1	B	A	B	B	A	A	B	B	B	B	11	34.4	0.18
8	1	1	1	1	1	1	A	C	B	1	B	1	A	B	1	A	B	1	A	B	B	A	A	B	A	B	A	C	B	/	A	/	10	31.3	0.20
9	1	B	1	1	A	B	1	1	B	B	1	1	B	B	1	A	1	B	B	A	C	A	B	B	A	A	A	C	1	A	A	B	10	31.3	0.49
10	1	B	1	A	1	1	A	B	B	1	1	B	1	B	A	B	B	1	1	B	B	B	A	C	A	B	A	A	B	B	B	B	9	28.1	0.46
11	B	1	B	1	B	1	A	1	B	C	B	C	B	C	A	B	B	1	B	1	A	B	A	B	1	B	B	B	B	A	1	A	8	25.0	0.81
12	1	A	B	1	C	C	1	1	1	A	A	B	A	A	C	A	B	B	A	/	A	A	1	1	B	B	A	B	A	1	B	A	8	25.0	0.66
13	1	1	/	1	A	1	A	A	B	1	B	B	A	C	1	A	A	B	B	B	1	B	C	A	B	B	A	A	1	B	B	A	8	25.0	0.54
14	1	1	1	1	B	C	B	B	1	/	1	A	/	C	B	1	B	/	B	/	/	/	A	/	A	1	A	/	/	/	/	B	8	25.0	0.37
15	1	1	A	/	A	1	1	B	1	C	A	C	B	B	A	A	C	B	A	A	B	1	1	A	B	B	A	/	B	A	A	A	7	21.9	0.45
16	B	B	A	A	1	B	A	A	A	B	A	C	1	B	1	B	B	1	B	A	A	B	C	1	A	B	1	B	C	C	1	B	7	21.9	1.19
17	1	1	B	A	1	A	B	A	A	C	1	C	1	A	1	/	A	A	B	/	B	A	A	C	C	B	A	C	A	B	B	A	6	18.8	0.40
18	C	A	1	B	1	A	B	B	A	C	1	B	A	B	A	B	B	A	B	A	A	B	1	A	1	A	B	B	C	A	B	B	5	15.6	0.78
19	C	C	/	A	B	/	1	A	B	B	B	B	/	A	B	1	/	C	B	A	A	A	/	A	A	C	1	B	A	A	/	1	4	12.5	1.28
20	A	A	B	1	B	B	C	A	B	A	A	1	A	1	A	C	A	B	B	1	C	B	C	B	C	B	C	B	B	C	C	A	4	12.5	0.85
																																	9.7	30.2	
正答数	15	12	12	11	11	10	9	9	9	7	7	7	6	6	6	5	5	5	5	4	4	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	1	6.0		
正答率	75.0	60.0	60.0	55.0	55.0	50.0	45.0	45.0	45.0	35.0	35.0	35.0	30.0	30.0	30.0	25.0	25.0	25.0	25.0	20.0	20.0	20.0	20.0	15.0	15.0	15.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	5.0	30.2		
注意係数	0.00	0.60	0.10	0.90	0.30	0.70	0.40	0.20	0.20	0.20	0.90	0.40	0.50	0.40	0.90	0.50	0.10	1.10	0.20	1.00	0.50	0.50	1.10	0.70	1.00	0.40	1.50	0.30	1.00	0.60	1.20	1.60	0.6		
差異係数																																	0.63		

42.5％であった。Ｙ群の語彙の中で、注意係数が1.0以上の語は５語、Ｚ群の語彙の中では同様に1.0以上の語は４語あった。中学年においてもＰ曲線より上の部分に誤答が混じっているように低学年同様に正誤のばらつきが大きかった。

高学年になると、低学年や中学年と逆形状の曲線になっていた。Ｐ曲線より上部に誤答が見られる語彙が少なくなり、無関係誤答１語以外は意味的誤答及び音韻的誤答であった。Ｓ－Ｐ表の中でＰ曲線より上部の誤答率は、10.4％であった。

中学生になるとＰ曲線の形状はより曲線状になっていた。Ｐ曲線より上部の誤答は高学年同様に無関係誤答が少なかった。Ｓ－Ｐ表の中でＰ曲線より上部の誤答率は、9.3％であった。

正答率と注意係数の関係から、低学年と中学年では、正答率が低い語彙は注意係数が高いという傾向があった。高学年では、注意係数が1.23の「発育」以外は、1.0未満の注意係数であった。中学生では、正答率が高い語彙（90％以上）に注意係数が高いという傾向があった。

表２－ｃ　聴覚障害高学年のＳ－Ｐ表

Ｐ曲線(Problem Line)　Ｓ曲線(Student Line)
1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択
X群：正答率85％以上　Y群：正答率85％未満15％以上　Z群：正答率15％未満

	X群											Y群																			Z群	正答数	正答率	注意係数
	事故	無事	救助	休息	秘密	家事	失敗	安全	好物	飼育	栄養	競争	幸福	協力	疲労	親切	対立	限界	技術	悲鳴	混雑	主張	保存	固定	労働	訪問	主食	賛否	比較	発育	興奮	知識			
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	31	96.9	0.00
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	29	90.6	0.25
3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	B	1	1	1	A	1	1	A	1	B	1	A	26	81.3	0.31
4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	B	1	1	1	1	1	A	1	A	/	/	A	/	A	23	71.9	0.15
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	A	1	1	B	1	1	1	1	A	B	1	1	A	1	B	A	B	B	22	68.8	0.32
6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	B	B	1	1	B	1	A	1	1	B	A	1	B	A	C	1	22	68.8	0.37
7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	A	1	1	A	1	1	1	A	B	A	C	B	A	B	A	21	65.6	0.09
8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	B	1	1	1	B	B	A	A	1	A	1	1	A	A	A	A	21	65.6	0.23
9	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	A	1	C	1	1	1	A	A	C	A	B	A	A	20	62.5	0.23
10	1	1	1	1	1	1	A	1	A	1	1	1	B	1	1	1	1	B	A	1	A	1	C	A	A	1	C	1	B	B	A	19	59.4	0.43
11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	B	B	1	1	B	B	1	A	A	B	A	A	1	1	A	A	A	1	A	17	53.1	0.39
12	1	1	1	1	1	C	1	1	1	1	1	A	1	1	1	A	1	1	1	1	B	A	A	A	A	A	A	A	C	B	A	17	53.1	0.13
13	1	A	1	1	1	1	1	1	A	1	1	B	A	B	1	A	A	1	B	A	1	A	B	C	A	A	A	C	1	A	A	13	40.6	0.37
14	1	1	A	B	A	A	A	B	1	B	C	1	1	B	C	B	1	A	A	B	A	C	B	A	B	B	A	A	A	1	C	7	21.9	0.63
																																20.6	64.3	
正答数	14	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	11	11	11	10	9	9	9	9	8	7	7	7	7	7	6	5	5	5	3	1	9.0		
正答率	100	92.9	92.9	92.9	92.9	85.7	85.7	85.7	85.7	85.7	85.7	78.6	78.6	78.6	71.4	64.3	64.3	64.3	64.3	57.1	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	42.9	35.7	35.7	35.7	21.4	7.1	64.3		
注意係数	0.00	0.46	0.06	0.06	0.06	0.11	0.21	0.31	0.51	0.41	0.11	0.57	0.47	0.07	0.73	0.19	0.89	0.59	0.39	0.34	0.50	0.00	0.10	0.00	0.40	0.16	0.11	0.21	0.41	1.23	0.03	0.84	0.3	
差異係数																																0.42		

表２－ｄ　聴覚障害中学生のＳ－Ｐ表

Ｐ曲線(Problem Line)　　Ｓ曲線(Student Line)

1：正答　A:意味的誤答　B音韻的誤答　C:無関係　／:不選択

X群：正答率85％以上　Y群：正答率85％未満15％以上　Z群：正答率15％未満

	X群													Y群																			正答数	正答率	注意係数
	事故	競争	秘密	救助	安全	協力	休息	無事	好物	技術	飼育	栄養	親切	幸福	家事	訪問	疲労	限界	混雑	失敗	保存	悲鳴	比較	対立	固定	賛否	労働	主食	主張	知識	発育	興奮			
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	32	100	-1.0
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	30	93.8	0.36
3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	B	A	29	90.6	0.22
4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	A	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	29	90.6	0.67
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	A	A	28	87.5	0.22
6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	1	1	1	A	28	87.5	0.58
7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	A	1	1	28	87.5	0.49
8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	A	1	B	1	1	1	1	1	A	1	A	27	84.4	0.35
9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	1	1	A	B	A	27	84.4	0.13
10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	A	/	1	/	1	1	A	1	1	1	1	27	84.4	0.59
11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	/	1	/	/	1	/	1	B	A	25	78.1	0.22
12	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	B	/	1	/	1	1	1	A	/	1	25	78.1	0.51
13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	1	/	/	1	A	/	A	A	A	24	75.0	0.01
14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	A	1	A	1	/	1	1	1	1	A	A	B	A	24	75.0	0.22
15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	/	B	1	1	A	1	/	B	B	A	24	75.0	0.10
16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	C	A	1	1	B	1	/	1	1	1	1	1	A	A	1	A	B	A	23	71.9	0.27
17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	B	B	1	1	1	1	1	1	1	A	A	A	A	A	A	23	71.9	0.16
18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	A	1	1	A	1	1	C	A	A	A	A	B	1	23	71.9	0.26
19	1	1	1	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	C	A	1	A	1	1	1	A	B	A	A	A	23	71.9	0.17
20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	A	1	B	1	1	1	1	A	1	A	1	/	/	/	A	23	71.9	0.28
21	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	1	1	1	B	/	1	A	B	B	1	1	A	1	A	B	/	22	68.8	0.20
22	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	B	B	1	B	1	B	1	A	1	1	A	A	A	A	A	21	65.6	0.15
23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	/	A	C	1	B	1	B	B	/	A	A	1	1	B	/	21	65.6	0.26
24	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	/	A	1	1	/	A	1	1	1	B	B	1	A	1	A	A	A	21	65.6	0.31
25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	C	A	1	1	A	A	A	A	1	A	A	A	A	21	65.6	0.12
26	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	B	1	A	A	A	1	B	C	1	A	A	A	B	1	20	62.5	0.27
27	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	A	A	1	1	B	1	A	1	A	1	A	A	1	1	A	A	A	A	20	62.5	0.31
28	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	B	1	1	A	B	A	1	A	1	1	B	1	C	A	A	B	A	B	A	19	59.4	0.18
29	1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	A	1	1	1	B	1	B	1	/	/	B	C	1	A	C	A	B	A	19	59.4	0.20
30	1	1	1	1	1	B	1	A	/	1	1	1	C	C	B	B	A	1	1	1	1	B	B	/	1	/	/	A	B	B	1	B	15	46.9	0.61
31	1	1	1	1	1	1	1	B	/	B	C	B	/	C	A	A	B	A	1	1	A	B	A	B	C	C	B	A	1	A	A	A	10	31.3	0.43
																																	23.6	74	
正答数	31	31	31	30	30	30	30	29	29	29	29	29	27	27	26	24	23	23	21	21	19	19	19	18	18	18	18	14	14	9	8	7	22.8		
正答率	100	100	100	96.8	96.8	96.8	96.8	93.5	93.5	93.5	93.5	93.5	87.1	87.1	83.9	77.4	74.2	74.2	67.7	67.7	61.3	61.3	61.3	58.1	58.1	58.1	58.1	45.2	45.2	29.0	25.8	22.6	73.7		
注意係数	0.00	0.00	0.00	0.97	0.67	0.37	1.17	0.05	0.05	0.35	0.55	0.25	0.10	0.10	0.17	0.12	0.39	0.39	0.74	0.94	0.29	1.09	0.39	0.36	0.46	0.16	0.56	0.36	0.66	0.23	0.31	0.58	0.4		
差異係数																																	0.45		

3.3　聴覚障害児のＳ－Ｐ曲線による類型

Ｓ－Ｐ表分析の類型[14]により分類した（**表３**）

低学年はプリテスト型に分類された。ほとんどの問題に対して正答率が低く、児童の習熟度も低い傾向を示している。差異係数からも習熟度が不十分であり学年と検査語彙が対応していない結果であった。

中学年は、低学年同様にプリテスト型に分類された。ほとんどの問題に対して正答率は50％以下であり、児童の習熟度は不十分であった。差異係数は0.6以上ではないが、抽象語彙の理解が不十分である傾向が見られた。

高学年は、演習問題型に分類された。一部の児童を除いては、平均点前後に習熟度が幅広く分布する傾向を示した。差異係数は標準的な値であった。

中学生は、演習問題型に分類された。正答率30％台の生徒もいるが、70％台を中心とした正規分布の形状になり、多くの生徒の習熟度が高くなっていた。

表３　Ｓ－Ｐ曲線による類型

	人　数	正答率	差異係数	Ｓ－Ｐ 曲線による類型
聴覚障害　低学年	14	24.8	0.63	プリテスト型
聴覚障害　中学年	20	30.2	0.63	プリテスト型
聴覚障害　高学年	14	64.3	0.42	演習問題型
聴覚障害　中学生	31	73.7	0.45	演習問題型
健聴　小学１年生	33	33.2	0.28	プリテスト型
健聴　小学２年生	35	48.7	0.23	テスト型（Ⅱ）
健聴　小学３年生	33	61.0	0.35	演習問題型
健聴　小学４年生	29	72.4	0.34	演習問題型
健聴　小学５年生	32	77.2	0.34	ドリル型
健聴　小学６年生	26	83.9	0.34	ドリル型

※差異係数：Ｓ曲線とＰ曲線の乖離の程度を定量的に表す係数

4　考察

4.1　聴覚障害低学年の抽象語理解傾向

低学年の児童にとって、正答率15％以下のＺ群に属する抽象語の理解は難しい。正答した中でＰ曲線より上部にある語彙は「救助」のみであった。すなわち、正答の必然性が低いということになる。この傾向は、健聴１年生や２年生にも見られた。健聴１年生の場合、「興奮」のみＰ曲線より上部に正答がある。また、２年生についても「主食」以外にはＰ曲線より上部に正答はない。これらから、困難語彙群に属する語彙は当該学年児童には理解困難語彙と判断することができる。特に、聴覚障害低学年と健聴１・２年生に共通している「技術・発育・労働・賛否」、また、健聴１・２年生のどちらかと共通している「興奮・疲労・家事」は、聴覚障害、健聴を問わず理解困難語彙と判断できる。

「選択肢形式テストや多因子を含むＳ－Ｐ表の場合には、注意指数0.6以上が要注意とされている。」[12, 13] Ｚ群に属している語彙はすべて0.6以上（正答数０を除く）であるので、基本的に理解困難語彙である。この傾向は、健聴１年生の「興奮」、２年生の「主食・発育」を除

いて同様である。

一方、「競争・秘密・事故・失敗・安全」の語彙は、聴覚障害児にとって標準語彙群に属している。この語彙は、健聴児にとっても容易語彙群に属している語彙、或いは、70％以上の正答率の比較的容易な語彙でもあった。この語彙は、日常生活や学校生活においても使用される語彙である。児童に慣れ親しみやすい語彙は習得も容易であると考えられた。

児童に焦点を当てると、健聴１年生と同等の抽象語理解レベルの児童は少なく、健聴２年生と比較すると全員が平均以下であった。１～２年生の時期に抽象語理解に遅れが生じる傾向が見られた。

4.2　聴覚障害中学年の抽象語理解傾向

低学年と比較して、困難語彙群に属する語彙は減少した。しかしながら、中学年の平均正答率は30.2％で、健聴１年生の33.2％より低い。ただ、困難語彙群の語彙数は、６語であり、健聴２年生の９語より少ない。「好物」を除いては、健聴２年生の困難語彙群と近似している。

聴覚障害児の困難語彙群のうち「賛否」は健聴３年生も困難語彙であるが、「主食・比較・保存・訪問・好物」は健聴３年生では、標準語彙群に属している。この中で、「保存・訪問・好物」は50％以上の正答率であり、「好物」は84.8％である。このことから、中学年の時期においては、聴覚障害児と健聴児との抽象語理解について質的な相違があるのではないかと考えられた。健聴４年生と比較すると、困難語彙群の「賛否」は聴覚障害中学年と同様であるが、「主食・比較・訪問・保存」は、標準語彙群であり、「好物」は容易語彙群であった。

児童の正答率は、健聴３年生及び４年生の平均以下であった。抽象語理解に低下が見られ、学習効果が現れにくい学年だと考えられる。聴覚障害児教育の課題として取り上げられる“９歳レベルの峠”を示した。

4.3　聴覚障害高学年の抽象語理解傾向

高学年になると、困難語彙群に属する語彙は、「知識」の１語のみとなり、標準語彙群が増えていた。この傾向は、健聴３年生と同様な傾向であり、正答率からは健聴３～４年生の間に位置することになる。健聴児と比較すると２学年ほどの低下傾向であった。

「安全、秘密、無事、飼育、失敗、救助、栄養」については、健聴３年生と共通した容易語彙群に属し理解傾向は類似している。健聴４年生と容易語彙群を比較すると、健聴３年生の容易語彙に「事故、好物」が加わった。高学年の抽象語の理解傾向は、健聴児３～４年生と同様であると考えられる。理解に遅れが生じてはいるが、理解語彙の質的側面に差異はないと考えられる。

中学年では、同学年の健聴児と正答率を比較すると平均以下であったが、高学年になると平均以上の正答率の児童がいた。割合的には小さいが、“９歳レベルの峠”を越える児童がいた。

4.4　聴覚障害中学生の抽象語理解傾向

中学生になると、正答数は73.7％であったので健聴４～５年生の間に位置する。容易語彙群数と標準語彙群数の割合を比較すると健聴４年生に近い。また、健聴４年生の容易語彙群と比較すると、「休息、技術」以外の12語が共通している。理解語彙の質的側面も類似していることが示されていた。

正答率という側面から健聴６年生と比較すると、10名がその正答率以上であった。健聴児の抽象語理解より遅れてはいるが、“９歳レベルの峠”を越え、健聴児と同様な語彙発達をする傾向が見られた。

このことから、聴覚障害児の抽象語に関する理解傾向は健聴児と比べ緩やかであるが、抽象

語を理解できないということはなく、確実に理解傾向は進むと考えられた。ただ、個人差があり、特別な支援を必要とする生徒がいることも事実であった。

4.5　抽象語彙指導法

Ｓ－Ｐ表分析の類型により、低学年から中学年は、健聴１年生と同類のプリテスト型であった。習熟度が低い類型なので、一語一語理解を図る語彙指導が必要になってくる。この類型では、健聴児の容易語彙群の語彙を基本に語彙理解を図り、語彙の拡充を行う指導が重要であると考えられる。

「正答率が高い場合、問題注意係数のばらつきが大きくなっても問題視することはない」[12,13]が、低学年においての問題注意係数のばらつきにより、検査語彙としては難しすぎると判断される検査語彙もあった。このことは、語彙指導する上で重要な示唆であると考えられる。すなわち、適切な時期に抽象語彙の学習を進めることにより、より高い学習効果が期待できると考えられる。

高学年と中学生が演習問題型に分類されることは、健聴３～４年生と同類であった。この類型では、大部分の児童・生徒は平均点前後に分布し習熟度も集中してくる。

「ドリルは学習内容を定着させることを目的とした課題であり、演習問題は一連の学習事項を総合し、理解を深めさせるために課する問題であり、両者は本質的には共通している。」[14]即ち演習問題型である高学年と中学生に対しては、抽象語の理解を図る指導と共に、繰り返しドリル学習をすることによって定着を図り、語彙理解及び拡充を進めることが重要である。さらに、抽象語の理解語彙が増す段階では、語彙ネットワークを築き、語彙同士を関連付ける指導が有効であると考えられる。

これまで、生活年齢（学年）群を基に抽象語の理解傾向を検討してきたが、健聴児と同様な抽象語の理解力がある児童・生徒が存在することから、個に応じた個別の指導を適切に行わなければならない。すなわち、演習問題型の指導法が適するのか、ドリル型の指導法が適するのかを評価し、個別の指導計画により適切な指導を行うことが重要であると考えられる。

我々は、絵画語彙発達検査の語彙年齢と抽象語彙理解が相関することを報告している[8,9]。語彙年齢が、抽象語の習熟を図る指導法や支援の指標になると共に、健聴児の抽象語の理解傾向も指標になると考えられる。

正答率と問題注意係数との関係から、高学年でも正答率が低い語彙もあるが、聴覚障害児、健聴児ともに正答率は学年進行と共に高くなる傾向があった。このことからも、抽象語彙指導においては、語彙発達の適切な時期に個別の語彙指導が重要であると考えられる。

5　結語

小学校中学年までは、聴覚障害の有無に関わらず、標準抽象語理解力検査語彙の中に困難語彙に属する語彙があった。このことは、語彙指導を進める上で重要な示唆であった。すなわち、適切な時期に抽象語彙の学習を進めることが、より高い学習効果を上げるために条件の一つだと考えられた。

また、Ｓ－Ｐ曲線による類型分析から、大まかではあるが、指導語彙の時期の推定ができ、語彙指導法の一助になると考えられた。

聴覚障害児の場合、小学低・中学年においては、抽象語理解の習熟度が低い傾向が見られたので、一語一語丁寧な語彙指導が必要である。健聴児の容易理解語彙を基本に語彙理解及び拡充を図る語彙指導が重要である。高学年になれば、抽象語の理解語彙が増えてくるので、語彙ネットワークを築き、語彙同士を関連づけるよ

うな語彙理解を深める指導が必要である。理解が深まった後に、ドリル的な指導を取り入れ定着を図ることが重要である。

高学年、中学生になると、所謂、“９歳レベルの峠”を越える児童・生徒がいた。語彙理解指導においては、Catch-upする時期があることを見過ごさず、適切に指導・支援をすることが重要である。

※１　注意係数（Caution Index）とは、項目反応パターン（Item Response Pattern：テスト個々の項目に対する学習者の反応パターン）の分析と反応パターンの状態を示す指数である。注意指数ともいう[14]。

〔文献〕

１）OECD 生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Asessment（PISA），2007，http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/071205/001.pdf.

２）梶田正巳；中島義明他編：“心理学事典（学力）”．有斐閣，1999，p115.

３）文部科学省：“小学校学習指導要領解説　国語編　平成20年８月”，2009，p9.

４）Traxler, C.B: Measuring up to performance standards in reading and mathematics; Achievement of selected deaf and hard‐of‐hearing students in the national norming of the 9th edition Stanford Achievement Test. Journal of Deaf Studies and Deaf Education, 5, 2000, p337-348.

５）中野善達：聴覚障害児の学力，聴覚障害，45(12)，1990，p2-10.

６）四日市章；前川久男（編）：“特別支援教育における障害の理解（聴覚障害と発達）”，教育出版，2006，p65-73.

７）宇野彰監修，春原則子，金子真人：標準抽象語理解力検査，インテルナ出版，2003.

８）國末和也，福島邦博他：聴覚障害児の抽象語理解，第６回日本言語聴覚学会抄録集，2005，p91.

９）K. Kunisue, K. Fukushima et al.: Comprehension of abstract words among hearing impaired children, International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology, 71, 2007, p1671-1679.

10）國末和也：Ｓ－Ｐ表分析による難聴児の抽象語彙理解傾向，日本特殊教育学会　第45回大会発表論文集，2007，p785

11）國末和也：Ｓ－Ｐ表分析による難聴児の抽象語彙理解傾向２，日本特殊教育学会　第46回大会発表論文集，2008，p584.

12）佐藤隆博：“Ｓ－Ｐ表分析の活用法”，明治図書，1998，p82-98.

13）情報文化教育研究会編集：“注意指数の解釈と利用法”，中央教育研究所，1998，p11-12.

14）佐藤隆博：“Ｓ－Ｐ表の入門”，明治図書，1999，p20-36.